

「頭の柔軟体操」～“ユーモア・ウィットの威力”をどうぞ！

人間考学を究めんとされる永遠の学徒、渡辺明・九州工業大学名誉教授にご登場いただいて、表題のシリーズをお届けします。

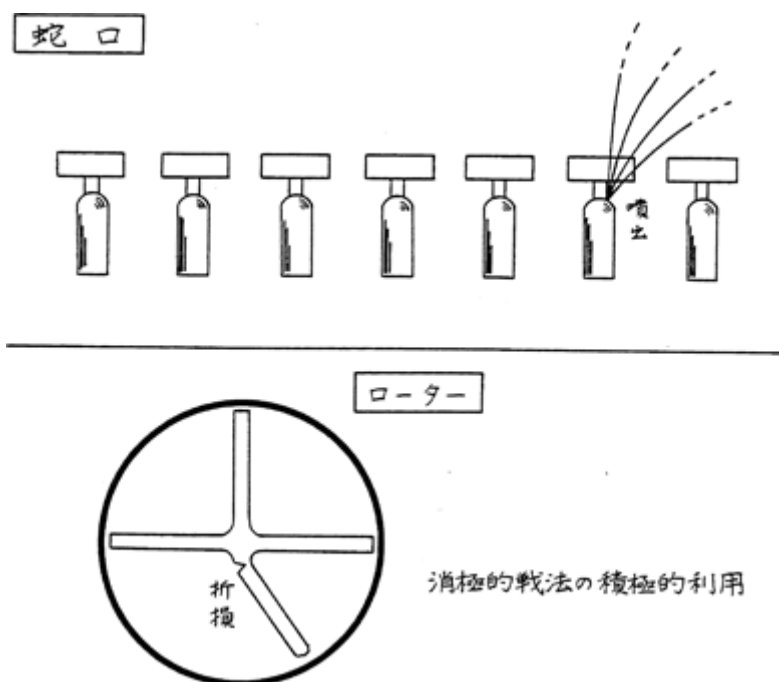
柔らかくほぐされた頭脳から、素敵な夢アイデアが誕生しますように！（コラム担当 T 生）

第 16 回

原点回帰 (No.7)

平成 26 (2014) 年 10 月

学制が改まり、男女共学などという、それまで想像したこともなかった方式が登場しかけの頃、某女子高の家庭科の料理実習を見学するために、クラス全員連れていかれた。“男女 7 才にして席を同じうせず”の教育の中で育った剛気少年にとって、男子禁制の園に入る驚きの初体験であった。



実習室には幾つかの調理台が整然と置かれ、それぞれにガスバーナー、水道蛇口がずらりと並び、鍋・釜・コンロ・食器などが台上にきちんと並べられていた。

見学のバンカラ少年達は後方に二列横隊、直立不動で整列した。

さて、あちこちで鍋の煮立つ音が聞こえ始めた頃、突然、キャーッという悲鳴と共にある蛇口から水が激しく噴き上がった。問題の調理台に一同一斉に駆け寄り、ネジを締めて布巾で抑え、紐でくったりもしていたが、止まる気配はなく、あっという間に一面飛沫の雨と化し、ワイワイガヤガヤ打つ手なしの風情となった。

その時である。それまで整然と見学していた級友の一人雲山悟明君がつかつかと現場に歩み寄るや、隣接する蛇口を次々に開けていったのである。水勢は忽ち弱まり、その後パッキングを取替え、一件めでたく落ち着いた。

話が飛ぶが、筆者がU.C.留学を終え明日はお発ちという日の午前中、同じく九州工大からスタンフォード大学に留学中の松永成徳教授が荷造りの手伝いと、パロアルトから遥々来て下さったのであった。

荷物を日通サンフランシスコ支店へ運び出して後、“飛ぶ鳥あとを濁さず”のつもりで部屋掃除にかかって間もなく、使用中の電気掃除機が突如轟然と唸り出したので中を開けてみたら、ローターの、十字をなした四枚羽根中の1枚が根元から折れていたのであった。

何とか接ぐ方法はないか、接着剤はないか、溶接してくれるところはないだろうか、色々と考えてみたものの、生憎の日曜日ですべてままならず、八方塞がりの中で途方に暮れていた矢先、「片方の羽を折るしかありませんな」と、松永教授に言われて同調、実行した。

勿論、唸りはピタリと止まり、吸引力の低下も見た眼には感じられなかった。一年間すっかりお世話になったオーナーに報告せぬまま、退去したことが長年気掛かりだったが、後年それを開けたとき、彼女は「日本人はなかなか味な機転策を講じたな！」と、「むしろ誉めてくれるかも」との自負さえあったことをふと思い出している。

噴出している蛇口ばかりに気をとられて、そこを封じ込めることのみを考えたり、折れた羽根を元通りに接合することだけを考える遣り方は、大抵の場合、大方の人間が咄嗟に採る策で、他の蛇口を開いて水勢を弱めたり、片方の羽根を折ってバランスをとり直したりする芸当は、よほどその基本原理を理解していないと、咄嗟にできることではない。技術者は、それができることが要件となる。

他の蛇口 ゆるめて 一件落ち着し
片方の羽根も折って けりをつけ
未明

渡辺 明 九州工業大学名誉教授
夢アイデア審査委員会 初代（平成14年～17年）委員長